

令和3年度 沖縄県振興審議会 第1回総合部会 議事要旨

日時：令和3年7月20日(火) 14:00～16:45

場所：県庁6階第2特別会議室

議事1(3) 社会経済展望専門委員会の設置について

- 環境に関する展望値についても、専門委員会の中でフレームワークによる数値的な議論を進めていただきたい。

議事2(1) 第1章 総説

- 自立型経済や経済発展のメカニズムの始動に係る表記について、読み手にとって分かりやすくなるよう、具体例や理由などを加えてはどうか。
- 3ページ6行目「インバウンド、物流、外国資本の流入等が進んだ」について、インバウンドと外国資本はよいが、物流の流入という語はおかしい。物流の増大や進展などにしてはどうか。また、物流も航空・海運なのか、ボリュームなのかもはっきりさせたほうがよい。
- 総説の部分で、沖縄21世紀ビジョンの将来像の実現に向けた基本計画であることを触れてはどうか。
- 「寄与」と「貢献」と同じ意味の語が使われているので、統一してはどうか。

議事2(2) 第2章 基本的課題

- 高齢化社会への突入に係る視点が、労働力の減少に留まっているように感じる。高齢者が増えると介護など様々な問題が出てくるため、高齢化社会への対応に係る記載を盛り込んでどうか。
- 「SDGsに関する万国津梁会議最終報告」で12の優先課題が設定されている。それを受けて県の取組、方針、姿勢に関する記載が見当たらないため、どこかで盛り込んでどうか。
- 8ページの33行目に「本県人口は令和12年(2030年)前後にピークを迎え、それ以降は減少に転じる」とあることから、本計画期間内で人口減少に転じることとなるため、11ページの4行目にある「人口減少局面にある我が

国において、本県は、出生率及び 14 歳以下の年少人口割合が全国一高く、数少ない人口増加県である」という社会的特性は該当しなくなるのではないかと。

- 11 ページ 18 行目「本県は地理的優位性やソフトパワー等の比較優位」とあるが、その地理的優位性の前に「本県は東アジアの中心に位置する」という優位性の内容を明記してはどうか。
- 17 ページ 21～24 行目「島しょ県特有の閉鎖的な立地条件や～先行モデル地域として、国方針を踏まえ積極的に貢献していくことが可能である」の部分について、沖縄ハワイクリーンエネルギー協力協定を踏まえエネルギー政策を展開していることを追記してはどうか。
- 19 ページ 20 行目で「シー・アンド・エア」という語を用いているが、シー・アンド・エアはビジネスモデルが作りやすく、実現可能なのか疑問がある。「国際物流拠点化の形成」など包含できる表現にしてはどうか。
- 8 ページの「⑤アジア経済の動向」について、米中対立の構図が 10 年前と変わってきており、観光客や経済面でリスクとなる可能性があるため、その認識について記載してはどうか。
- 12 ページ「(1) 沖縄経済の重要課題」において、元々ある地場産業の低迷や衰退に対してどう取り組むのかがあまり書かれていないため、生産性の高い産業のみならず地場産業においても、先端技術の活用などの新しい動きの中にしっかりと取り込んでいくことを記載してはどうか。
- 20 ページ 12 行目「本県は、我が国で唯一、基幹的な公共交通システムである鉄道を有していない」とあるが、有していないことが鉄軌道導入の理由と捉えられてしまうため、削除してよいのではないかと。その下の「県土の均衡ある発展」以降の文章だけでも十分ではないかと。
- 新型コロナウイルス感染症を含め、島しょ地域ゆえに公衆衛生上の比較的特殊な課題にも直面していることから、島しょ地域としての公衆衛生上の体制づくりなど課題として記載してはどうか。
- 11 ページ 29 行目「亜熱帯と海洋環境に根ざした本県の『健康・長寿』イメージが定着しつつある」とについて、長寿県というイメージがだんだん微妙になっている印象もあることから、「定着しつつある」という表現は少し気になる。
- 21 ページ 3～9 行目まで跡地利用について記載されているが、駐留軍用地

の環境汚染に係る立ち入り調査の実施についても、将来像実現に向けた課題と道筋で示してはどうか。

- 6 ページ 25 行目「発想の転換（パラダイムシフト）」について、構造の転換や枠組みの転換としてはどうか。
- 6 ページ「SDGsの展開」について、企業構造など企業、経済に偏った記述になっているので、もう少し膨らみのあるSDGsの記述にしてはどうか。

議事 2（3）第 3 章 基本方向

- 施策展開の基本的指針として「安全・安心で幸福が実感できる島」の形成を設定しているが、唐突感があるため、前段で記載のある時代潮流、地域特性、基本的課題等を踏まえて設定している旨を追記してはどうか。

議事 3（1）基本施策 2-(5) 多様性を尊重する共助・共創社会の実現

- 男女共同参画社会づくりの拠点である沖縄県男女共同参画センター「ているる」の充実、強化を追加してはどうか。
- 世界に遅れる我が国のジェンダーギャップ指数(120位)を脱却するには、女性の政治参画を促進することが大切であり、女性議員がゼロの自治体(11市町村)を解消するための施策(クォータ制の導入)を取り組めないか。
- 女性の活躍は管理職登用が目的・ゴールではなく、「働きがい(=仕事に対する満足度)」並びに男女参画や多様性に配慮しながら、それぞれの能力を生かした活用が重要である。
- 68 ページ 12 行目「市町村等に対する働きかけ」という表現は漠然としているので、「男女共同参画に関する具体的な施策の策定に対する働きかけ」に修正してはどうか。
- 68 ページ 12 行目「男女共同参画の推進に向けた講座・講演会等の開催」について、講座の多くがているるを拠点にして展開されているため、「ているるを拠点に」という文言を追加してはどうか。
- 68 ページ 32 行目「企業、NPO 等の多様な主体」について、「地域組織との連携」を追記してはどうか。
- 地域の課題解決の担い手となる人材の育成について、それぞれの担い手のみならず、その人材を結びつける更に1つ上のコーディネーターを配置して

ほしい。

- 近年の傾向として沖縄に外国人が増えていることから、外国人の生活のしやすさというのもこの施策の中に盛り込んではどうか。
- 施策の成果指標について、「相談件数」や「講座の受講者数」を用いているが、施策を展開して評価する際に、効果を捉えにくくなるのではないか。「相談件数」より「相談できる拠点をいくつ設けたか」などのほうが分かりやすいのではないか。
- 69 ページ 10 行目「NPO 法人と公的な分野における協働の取組」と 12 行目「県と事業者等の中で」の記載があるが、書きぶりを統一してはどうか。
- 高齢者の介護は主に女性が担っており、今後、高齢化社会が更に進んで介護の人数が増えたときに、女性に高齢者の介護問題が多くのかかってくるのではないかという心配があるため、記載する必要があるか検討してほしい。

以上